

令和3年7月28日

浜田市議会議長
川神裕司 様

議員名 澁谷幹雄

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和3年7月20日(火) ～ 21日(水)
2. 研修内容
令和3年「第2回市町村議会議員特別セミナー」
3. 研 修 先
JIAM
4. 調査経費 2,440 円
(経費内訳 受講料2000 円、振込料 440 円)
5. 調査研究活動の概要 別紙



人口減少社会における地方自治体の役割

—地方創生と東京一極集中と新たな国土作り—

明治大学 加藤久和

- 今後 50 年間で、総人口の3分の1が減少する⇒現在の市町村がそのまま存続することは不可能
- 人口減少は高齢化を伴う—規模の小さい自治体ほど、直面する問題は困難極める
- 2065 年の総人口—8,808 万人、65 歳以上38%、75歳以上25%、85 歳以上12%
- 人口規模が小さく、人口密度が低い自治体ほど、人口減少速度が速い
- 地方消滅—若者の流失が最大原因⇒人の流れを変えること
- 多様な働き方のできる都市—小松市・鳥取市・高岡市・西条市・飯田市
- 地方創生の定義—人口減少の歯止め、住みよい環境の整備、地域産業の創出と雇用確保
- 人口移動の現状と東京一極集中—経済と雇用の集積
⇒東京は国際都市へと発展すべき
- 東京圏は、転入転出とも多い—活発な人口移動と経済活性化
⇒集積の経済メリットと混在・急速な高齢化・災害リスクのデメリット
- 全国から、東京圏へ。オリンピックパラリンピックで集中加速
- 東京圏への集中—仕事を求めて、仕事が一番の理由
- 東京を弱体化させるのではなく、中核都市を強化すべき
- 新たな国土の在り方と地方自治体の役割—コストと効率
⇒多極化・コンパクト化・集積化
- 地域活性化の成功例—個別的・偶然的要素大きく、「人材」に依存。マネできない。地域は多様。
- 新たな国土づくり
- 連携中核都市—コンパクト化とネットワーク化によって、活力ある拠点を形成する
- コンパクト化—立地適正化計画⇒中心都市に人を集める—10万人～20万人都市
⇒スタバのないまちには、若者は住み着かない、明治大学の留学生の理由(秋葉原に近いから)
- 社会保障の役割り分担—行政区割りの見直し、DX の強化のためには、道州制も。
- 人口減少社会におけるガバナンスの在り方
- 若い人が主役の長期戦略が必要、すべての地域が勝ち組にはなれない
- 地方創生で考えるべき視点⇒30 年後をどうするか—若い人の議論
- 「高学歴・20～39歳女性」が満足する拠点づくり
- 今のままでは、地方は 20 年持たない—交付税は減っていく
- コンパクトな地域計画が必要
- 少子化問題—将来への明るさや展望がないのが一番の理由
- 地方自治体—フルセット主義からの脱出、全国一律主義の限界、広域連携への決断
- 一極集中から多極化へ
- 地方の時代から、「地方の中心地の時代」へ

Society5.0 時代の到来と行政のデジタル化

東京大学 越塚登

- 日本のデジタルの課題—国家的困難に直面したときに脆弱さが露呈する—情報共有ができない、情報伝達の問題が露呈、デジタル敗戦と揶揄⇔地震速報は日本だけ、ゲーム、初音ミク
- デジタル技術で国民の日常は大きく変わった—スマホでコミュニケーション、スマホで注文、デジカメ、ユーチューブ、電子本、論文電子化、恋愛のすれ違いはない—全部がダメでない、早すぎた(エクセルにこだわる日本人)
- デジタルガバメントの動向—組織やビジネスを変革することが DX
- 地方自治体のデジタル化—地域課題の解決、地域経済活性化のための DX

- デジタル技術は、それにあった仕事のやり方をしないと有効に働かない⇒制度を変えないとダメ
- 業務の効率化とデジタルのマイナス効果—ICT は、それにあった仕事のやり方を変えないと有効に働かない—ETC でなければ高速道は乗れないとすべき
- DXは、適用しやすい環境と適用しにくい環境がある
- 自治体行政のデジタル化—業務の効率化と提供価値の向上
- DX は、新しい価値を作り出すことは難しい⇒コスト削減と業務の効率化に向く
- 組織やビジネスを変えたくない人ほど、DXを使いたがる⇒制度改革・業務改革・組織改革—働き方や組織構造、業務プロセスを変えなければ、DXは単なる負担増になるだけ
- 国民の満足度を最大化するデジタル政府・デジタル社会
- デジタルファースト・ワンスオンリー・コネクテッドワンストップ—三原則
- 行政手続きのオンライン化・情報システムの共同利用・ガバメントクラウドの活用
- 国民の満足度を最大化するデジタル社会へ
- 地方のベンダーは都会のために働いている⇒地方のために

改めて議会とは何かを考える

京都大学 曾我健吾

- 集合知が生れる時、阻害される時
- 多数決とは何か—うまく決められないとき、解決策は
- 議会での議論は、何のためか
- 考え方を変えるもの、選択肢を広げる
- 議会が果たしうる様々な役割と可能性—意見がわかれるところに、ともかく一つの決定をする、だけでなく、答えを全員で探していくことも
⇒話し合うことで、意見を変えること、新たな選択肢をさがすことも
- 多様性が持つ強みと難しさ—多様であれば、決定の難しさは増す

本当の意味での「健康しが」へ

滋賀県知事 三日月大造

- 子どもの笑顔を増やしたい
- ところに寄り添いたい
- まちづくりで、人と人をつなぎたい
- 健康しがツーリズム—地域資源を「掘る起こす」「つなぐ」「みせる」
- 電子申請システムの共同調達
- 知事と県内13市 6 町の首長の意見交換—首長会議
- 全国へ滋賀を発信—マザーレイクゴールズ
- 琵琶湖の水を育む山を健康に
- 死生懇話会—人生100年時代の到来、死生観
- タウンミーティングと次世代会議

所感

政治に何よりも必要なのは、哲学だと改めて思うというか、どこかの国のリーダーの会見や発言を聞いていると、その口ココな内容に最後まで聞いていることができず、すぐにチャンネルをかえてしまい、自分の気の短さがイヤにもなるのだが、プラトンに「国家」という大著があって、この中でソクラテスが縦横無尽に、正義とは何か、国家にとっての正義とは何か、人びとにとって国家とは何か、人々にとっての正義とは何か、と相手を論破していく姿は、極めて高尚で、高貴でさえあるわけで、コロナ禍でのこの国の在りようは、いかんともしがたく、哲学のない者たちの咆哮に付き合わされている国民の寂寥感は果てしなく深まっていくようで、いやなに、今回の研修で最初の言葉を再認識した次第である。